

# 芸術工学部

## 芸術工学部 芸術工学科（2020年度入学者）

---

### 教育研究上の目的

芸術工学部は、技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と人間精神の最も自由な発現である芸術とを総合し、技術の進路を計画し、その機能の設計について研究するとともに、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする設計家を養成することを目的とする。

---

### 1. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学部は、九州大学教育憲章に定める教育の目的と4つの原則（人間性の原則、社会性の原則、国際性の原則、専門性の原則）及び本学部における教育上の目的を踏まえて、次に掲げる「芸術工学」の基本・基礎を十分に理解し、社会的な要請に応える創造性あふれる高度デザイン人材を育成する。さらに各コースで掲げる到達目標を達成した学生に対して、学士（芸術工学）の学位を授与する。

- ・芸術工学に関連する様々な専門知識を総合的に活用しながら社会の課題を発見・提起する能力。
- ・広い視野に立って他者と協力しながら課題の解決に向けて取り組む能力。
- ・課題の解決のためのプロセスを明確にし、企画・実践する能力。
- ・自らの感性や専門的知識を有効に活用しつつ、考えを効果的に表現・伝達する能力。

### 2. 教育課程の編成（カリキュラム・ポリシー）

本学部のカリキュラムは大きく分けて、全学共通の基幹教育と学部独自の専攻教育からなる。

全学共通の基幹教育では、新たな知や技能を創出し、未知の問題を解決していく上での幹となる「ものの見方・考え方・学び方」を学び、生涯にわたって自律的に学び続けるアクティブ・ラーナーの育成を目指し、初年次－学部－大学院－社会へと続く学びの成長を支持する幹を作る体系的なカリキュラムとして機能する。

2年次からの学部専攻教育では、基幹教育で掲げる目的と目標を踏まえながら、芸術工学の学問的アイデンティティを強化しつつ、50年間芸術工学が培ってきた専門性を活かして、学生に基盤となる設計の知識や技能を身に付けさせるように、以下の方針で高度デザイン人材に必要な創造性を育むデザイン教育を構築する。

- ・多様化・複雑化している今日の社会課題を発見・提起できるように、芸術工学に関連する様々な専門知識を修得させる。
- ・広い視野に立って複数の専門分野の人々と協力しながら課題解決へ向かうための知識や技能を修得させる。
- ・新たな価値の創出や課題解決に向かうプロセスを明確化し、企画・実践するための知識や技能を修得させる。
- ・自らの感性や専門的知識を活用しながら、考え方を効果的に表現・伝達するための知識や技能を修得させる。

### 3. 入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）

九州大学では、九州大学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。

その中で芸術工学部では、本学部の理念である「技術の人間化」に基づき、技術を人間生活に適切に利用するための道筋を設計する「高次のデザイナー」の養成を目的とし、以下のような学生を求めている。

- ・芸術工学に関連する様々な専門知識を修得し、社会の課題を発見・提起できる力を修得するために必要な基礎学力、論理的な思考能力とともに、美しさ、心地よさ、文化的な深みなどを感じ取れる感性を有すること。
- ・広い視野に立って他者と協力しながら課題解決へ向かう力を修得するために必要な、豊かな人間性、創造性、挑戦する精神を有すること。
- ・課題解決のためのプロセスを明確化し、実践する力を修得するために必要な、自ら問題を設定し、積極的に解決に向かう意欲を有すること。
- ・自らの感性や専門的知識を有効に活用し、考えを効果的に表現・伝達する力を修得するために必要な、国際的な志向性、多様性に対する好奇心と寛容性、柔軟な思考力を有すること。

---

上記に加え、各コースにおいても以下のとおり個別の学位授与方針、教育課程の編成、入学者選抜方針を定めている。